

み言葉は

いのちの言葉

ペトロの手紙一 2・9参照

主の力ある業を広く伝えるよう招かれています。

神様が働かれるとき、素晴らしい業を成しとげられます。

すべてにまさる神様の業は、イエス様により成しとげられた業です。イエス様は死と復活により、新しい世界と新しい民を生み出されました。

とても力強いもの

新しい民をお造りになった神様は、利己心や恨み、憎しみから私たちを解放され、相互愛の掟をお与えになり、私たちを一つの心一つの魂にしてくださいました。

愛こそ、この世で最も力あるものです。愛を生きる人の周りには、静かにキリスト教的な革命が生まれます。この世で、また私たちキリスト者の間で、愛がどれほど必要とされていることでしょうか！

喜びを証しする

お互いの愛の約束

『互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを、皆が知るようになる』(ヨハネ13・35)とイエス様は言われました。世は、私たちの間の相互愛と一致を見て、私たちがイエス様の弟子であると知り、またイエス様を知るようになるのです。

具体的に態度で

今の時代は、**愛と一致、交わりと連帯**を、私たち一人ひとりに求めています。

わたしたちの経験



いのちです。

ぼくはパウロ、16歳です。

むずかしいと思っていたけど

新しい学校で一年が過ぎました。ぼくのクラスで最初のときの経験からもう何日も過ぎました。

もしサッカー場でひとりでしたとしても、そのときほどの孤独を感じることはなかったでしょう。

最初のころの印象はこんなふうでした。

そうした環境でもぼくの生き方をもたらしたいと思っていました。でも他の人には理解してもらえず、どんどん孤独を感じるようになりました。そして、もうこう生きるのはやめて自分のしたいようにしようかなと思うこともありました。

ある時先生が、町で少年少女たちも関係した大きな出来事について話し合うように言いました。話し合いでは、表面的なことしか出てきていませんでした。それでぼくは、自分の意見を言うべきかどうか、迷いました。

ぼくは、自分の思っていることを話すことに決めました。人類皆兄弟であり、御父が皆を愛し、起こることはみなにとっての善になるよう起こるものだと話しました。

そのとき、沈黙が少しあって、まるでぼくには永遠に続いたかと思われました。でも予期しないことに、「素晴らしい話だね。」という称赞の声があがりました。

授業がおわって、ひとりのクラスメートが来て言いました。「君が話したことは、君がやっていることからわかるよ。ぼくも君のように信じたいんだ。だからぼくも拍手したんだよ。」

君も同じような経験をしたことはない？

